

原規規発第 22060110 号  
令和 4 年 6 月 1 日

四国電力株式会社  
取締役社長 社長執行役員 長井 啓介 殿

原子力規制委員会

原子力規制検査の結果に基づく総合的な評価の通知について

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和 32 年法律第 166 号）第 61 条の 2 の 2 第 7 項の規定に基づく総合的な評価について、同条第 9 項の規定に基づき、別紙のとおり結果を通知します。

## 四国電力株式会社伊方発電所1号機、2号機、3号機 令和3年度 原子力規制検査の総合的な評価について

令和3年度に原子力規制庁が四国電力株式会社伊方発電所1号機、2号機、3号機において実施した原子力規制検査の結果に関して、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第61条の2の2第7項に基づく総合的な評価は以下のとおりである。

なお、1号機に対しては平成29年6月に、2号機に対しては令和2年10月に廃止措置計画が認可されている。

### 1. 令和3年度 原子力規制検査等の結果

原子力規制庁は、令和3年度において事業者の安全活動に関して基本検査を実施した。その結果は以下のとおりである。

#### (1) 原子力規制検査の結果

基本検査を実施し、以下の深刻度評価のみ行った案件1件が確認された。

○四国電力株式会社伊方発電所における宿直中の重大事故等対応要員の無断外出（S L IV（通知あり））【第2四半期】

社員が、宿直勤務中に無断で伊方発電所から外出し、その間、一時的に保安規定に定める重大事故等対応要員の必要な人数を満たしていない時間帯があったことが確認された。

#### (2) 安全実績指標の結果

安全実績指標について、評価対象となった項目は年間を通じて「緑」の状態であった。

#### (3) その他事項

なし

### 2. 総合的な評価

令和3年度においては、深刻度評価のみ行った案件1件が確認されたが、深刻度「S L IV」であり、安全実績指標は年間を通じて「緑」であった。

また、各監視領域での活動目的の達成に向けた改善活動には、特段の問題は確認されなかった。

対応区分は年間を通じて第1区分であり、各監視領域における活動目的を満足しており、パフォーマンスの劣化が生じても自律的な改善が見込める状態であると評価する。

### 3. 次年度以降の検査計画

令和4年度の原子力規制検査は、令和3年度を通じて対応区分が第1区分であることから、引き続き第1区分とし、基本検査を行うこととする。

検査計画については、以下の原子力規制委員会ホームページを参照。

○検査計画一覧

[https://www2.nsr.go.jp/activity/regulation/kiseikensa/joukyou/plan\\_ichiran.html](https://www2.nsr.go.jp/activity/regulation/kiseikensa/joukyou/plan_ichiran.html)